

主催者あいさつ

窪川町長 前田哲生

ただいま、窪川町・大正町・十和村の合併に係る調印が、皆様方の署名を得て、滞りなく締結されました。誠に意義深く、感無量のものがございます。

本日の調印は、平成18年3月20日をもって、窪川町・大正町・十和村の3町村を廃し、新たに四万十町を設置することを要として、これに付帯する新町の事務所の位置・財産及び債務の取り扱いなど、延べ50項目に及んでおります。

いずれも四万十町の発足にあって基本中の基本・中核となる事柄ではありますが、本日、めでたく合意が成立しましたことは、3町村の歴史にエポックを画する極めて意義深い出来事であり、あります。

省みますと、大正町は約1世紀、窪川町と十和村はそれぞれ半世紀に亘って現行の行政運営体制を維持してきたところであり、そこには脈々たる住民の営みと数え切れない歴史が刻み込まれております。

また、国が進める平成の大合併・三位一体改革の下、今日に至るまで様々な紆余曲折がありました。最終的に住民の皆様

▼主催者あいさつを行う前田町長



方は創造的な英断をもって、3町村が新たな運命共同体としてスタートする道を選ばれました。その判断材料ともなり、かつまた新生四万十町のあるべき姿・基本的事項をお取りまとめた皆さまは、時代を先取りする先見性・一年余の長期にわたる真摯なご尽力に対し、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

ては、『山・川・海 自然が人が元気で四万十町』を旗印に掲げ、四つの基本理念と五つの重点プロジェクトの下に、地域に相応しい産業と文化を集積・発展させ、誰も住んでよかつた実感で暮らせる町づくりを指すことにしています。合併はゴールではなく、深刻化する財政難と地方分権の潮流の中で、新たに広域的な地方自治を再構築していくための受け皿であり、本格化する少子・高

窪川町・大正町・十和村は、国民的財産とも言われる四万十川の中流域にあって、共に豊かで奥行き深い自然を共有するとともに、既に日常生活圏・産業経済・福祉医療・文化等々各分野においても、多くの共通基盤が形成されており、合併の枠組みとして優れて自然的な土壌を兼ね備えていますし、かつまた最も相応しい選択であると確信しております。

年齢化社会に対応して、自立した自治体として生き残る地域経営の手段であります。同時に、これを契機として新たな発想の下に、豊富な地域資源と優れた人材を活かす住みに身近な行政サービス、福祉と暮らしを守り、持続的に発展させなければなりません。そのためには、要諦となる新町建設計画の基本理念はもとより、「人と自然が共生する持続的環境の地域づくり」をはじめめとする主要政策を着実に早期に実現することが必須要件となります。一日も早く、新住民の一体感を醸成し、新町建設の下に、輝かしい四万十町建設に取り組みで参りたいと存じます。

つきましては、積み残し課題も少なからずありますし、現行の事務事業の全てについて、調整統合する作業工程が控えています。向こう一年、関係者の英知を集め、精力的な調整を行い、あまねく町民の合意形成が得られるよう勧めて参りますが、ご列席の皆様方の更なるご指導、ご協力を切にお願い申し上げます。

あと一年一か月余り、平成18年3月20日、新生四万十町が力強く歩み始めることを心から念願し、簡単ですが調印式に当たってのご挨拶といたします。